

授業科目名	忍ヶ丘教養Ⅱ	教員名	田中 幸子	免許・資格との関係	小学校教諭	
			菅 邦男		幼稚園教諭	
			渡邊 耕二		保育士	
山下 智也						
授業形態	講義	担当形態	オムニバス		こども音楽療育士	
科目番号	SIN102	配当年次	1年後期	卒業要件	小幼コース	必修
単位数	2単位				幼保コース	必修
科目						
施行規則に定める科目区分又は事項等						
科目	教養科目（保育士）					
系列						
一般目標	忍ヶ丘教養Ⅱは、「コミュニケーション能力の修得」をテーマとしており、他人とコミュニケーションするときに必要な「聞く」、「考える」、「話す」の3つの能力を獲得することを目的にグループディスカッションによる演習等を通じた学習を行う。到達目標は以下の3つである。					
到達目標	(1)正しい日本語を運用し、自分の意見の論点をまとめて論理的に相手に伝えることができる (2)相手の言うことや考えをよく聞き、相手の主張を自分なりに整理し、解釈することができる (3)特定のテーマについてグループ内でディスカッションし、グループ内で意見をまとめ、1つの見解を得ることができる。					
授業の概要	<p>授業の構成は大きく3つに分かれる。まず、コミュニケーションの目的について学び、上手な伝え方、聴き方についての基礎的な技術を学ぶ。次に、グループに分かれてテーマに沿ったディスカッションの練習を行い、他者と言葉のやり取りする中で他者の意見を聞く技術や、自分の考えを主張する技術を実演を通して学ぶ。最後に、プレゼンテーション及びディスカッションのテーマを自分達で設定し、自分達の主張を正しく相手に伝えるための資料作成、及びそれを相手にわかりやすく口頭で説明できるようになるためのプレゼンテーションの技術や説得の技術を学ぶ。授業形態は講義とする。</p> <p>[田中幸子／3回]</p> <p>コミュニケーションの目的や課題について学び、コミュニケーションとは何かを理解する。また、第一印象の影響について学ぶ。</p> <p>[山下智也／4回]</p> <p>第一印象の影響や上手な伝え方、聴き方についての基礎的な技術の修得、さらには異年齢の相手との関わり方など実際の場面において効果的なコミュニケーションの方法を具体的な事例から学ぶ。</p> <p>[渡邊耕二／4回]</p> <p>グループに分かれてテーマに沿ったディスカッションの練習を行い、他者と言葉のやり取りする中で他者の意見を聞く技術や、自分の考えを主張する技術を実演を通して学ぶ。</p> <p>[菅 邦男／4回]</p> <p>プレゼンテーション及びディスカッションのテーマを自分達で設定し、自分達の主張を正しく相手に伝えるための資料作成、及びそれを相手にわかりやすく口頭で説明できるようになるためのプレゼンテーションの技術や説得の技術を学ぶ。</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「1. 社会・教育等に関連する国内外の様々な問題について、現状・課題を認識し、その解決策を考察できる能力を身につけている。」「2. 教育者としての情熱を持ち、正しい倫理観と責任感を身につけている。」「3. 教育者として、持つべき十分な記述力・プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
履修条件・注意事項	忍ヶ丘教養Ⅰを履修しておくこと。					

授 業 計 画	<p>[担当：田中 幸子]</p> <p>第1回：本講義の達成目標や今後の計画について、オリエンテーションを行う。</p> <p>第2回：コミュニケーションにはどのような形態があるのかについて、グループで考え、それぞれのコミュニケーション形態の特徴について、意見を述べ合う。(目標(1))</p> <p>第3回：コミュニケーションにおける問題点や課題について、グループ内で意見を出し合う。(目標(1))</p> <p>[担当：山下 智也]</p> <p>第4回：第一印象が対人理解にどれほどの影響を持つのかについて、簡単な実験を行い検証する。(目標(2))</p> <p>第5回：上手な伝え方・聴き方の技術について学ぶ。その際にグループ内でお互いに意見を述べ合い、どのような伝え方・聴き方がより効果的かについて議論する。(目標(2))</p> <p>第6回：上手な頼み方と断り方の技術について学ぶ。その際にロールプレイを行い、グループ内でどのような頼み方・断り方が効果的かについて議論する。(目標(2))</p> <p>第7回：異年齢の相手との関わり方について、特に敬語の使い方と振る舞い方を学ぶ。その際に、グループ内でのロールプレイを通して、どのような関わりがより適切であるかを議論する。(目標(2))</p> <p>[担当：渡邊 耕二]</p> <p>第8回：話し合いの力を高めるため、グループ内でディスカッションを行うことの目的とルールについて理解する。その際に、グループに分かれて相互に確認し合う。(目標(3))</p> <p>第9回：ディスカッションの方法について、モデリングし、ディスカッションの流れについて理解する。その際にグループに分かれて進行状況を相互に確認し合う。(目標(3))</p> <p>第10回：課題テーマについて、ディスカッション演習を行う。ディスカッション終了後には、話し合いのスキルを高めるための発見シートの記入を行う。(目標(3))</p> <p>第11回：ディスカッションの過程について振り返りを行う。その際に、グループ内で相互に話し方や聴き方について意見を述べ合う。(目標(3))</p> <p>[担当：菅 邦男]</p> <p>第12回：プレゼンテーションのテーマ設定をグループ内でディスカッションで行う。(目標(3))</p> <p>第13回：プレゼンテーションに向けての計画とグループにおけるディスカッションを行う。特に、どのような計画でプレゼンテーションを行った方がより効果的かについて意見を述べ合う。(目標(3))</p> <p>第14回：各グループがプレゼンテーションを行い、終了後に質疑応答を行う。質疑応答の際にはそれまでの学習内容を踏まえた質疑応答になっているかどうかについてチェックする。(目標(3))</p> <p>第15回：適切なプレゼンテーション及び質疑応答ができたかについて、全体ふり返しを行う。(目標(1), (2), (3))</p> <p>期末試験</p>
学 生 に 対 す る 評 価	<p>到達目標(1)～(3)の到達度を評価するためのレポートと期末試験の内容(50%)とグループでのテーマ設定とプレゼンテーションの内容(50%)を総合的に評価する。</p> <p>なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。
時 間 外 の 学 習 に つ い て	<p>(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。)</p> <p>事前学習：毎回次回の予告を行い、次回までの課題を提示する。</p> <p>事後学習：学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努めること。授業の冒頭で、前回の授業内容についての説明を求める。</p>
テ キ ス ト	特になし

<p>参 考 書 ・ 参 考 資 料 等</p>	<p>『話し合いトレーニング—伝える力・聴く力・問う力を育てる自律型対話入門—』 大塚裕子・森本郁代（編） ナカニシヤ出版</p>
<p>担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ</p>	<p>教員や保育者を目指すためには、しっかりしたコミュニケーション力を身につけることが求められます。その基礎をしっかりと学んで欲しいと思います。</p>
<p>オ フィ ス ア ワ ー</p>	<p>田中幸子：火曜日・木曜日 9:00～12:00 菅 邦男：木曜日 15:00～17:00 渡辺耕二：金曜日 13:00～16:00 山下智也：火曜日・木曜日 14:40～16:10</p>